

経済・金融 フラッシュ

雇用統計 09年11月

～失業率は4ヵ月ぶりに悪化も労働需給は改善傾向

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

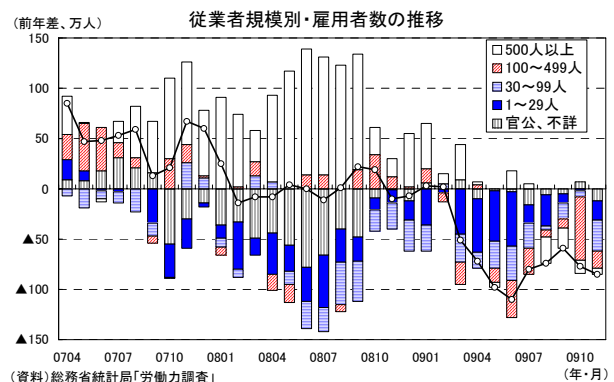
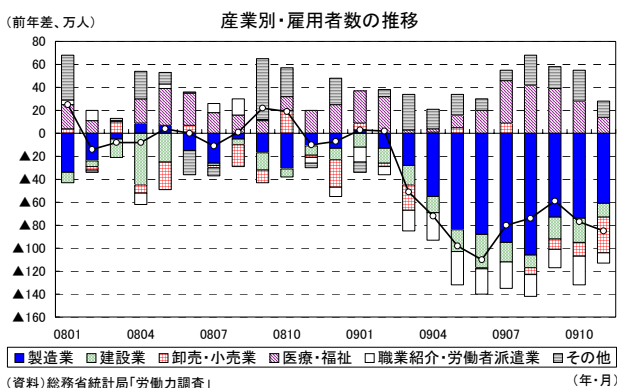
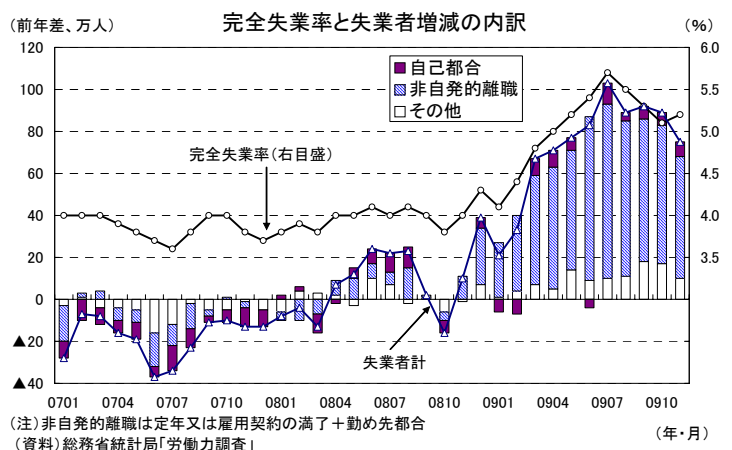
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 失業率は4ヵ月ぶりに悪化

総務省が12月25日に公表した労働力調査によると、11月の完全失業率は前月から0.1ポイント上昇し5.2%となった（ロイター集計事前予想：5.2%、当社予想は5.3%）。失業率の悪化は4ヵ月ぶりとなる。

雇用者数は前年比▲1.5%となり、10月の同▲1.4%から減少幅が拡大した。自営業主・家族従業者も大幅な減少が続いたため、就業者数も前年比▲2.0%（10月：同▲1.8%）と減少幅が拡大した。

失業者数は331万人、前年に比べ75万人の増加となったが、ピーク時（7月の103万人増）に比べると増加幅は縮小している。失業者の内訳を求職理由別に見ると、非自発的な離職による者が前年に比べ58万人増（うち勤め先都合が49万人増）となり、全体の約8割を占めた。一方、自己都合による失業者は7万人の増加となった。



雇用者数の内訳を産業別に見ると、製造業の雇用者数は前年に比べ▲61万人の減少と10ヵ月連続で減少したが、8月の同▲106万人減をピークに減少幅は縮小傾向が続いている。鉱工業生産は

09年春頃から回復を続けているが、ようやく製造業の雇用へもその影響が表れ始めたとみることができよう。一方、卸売・小売業は前年に比べ▲31万人の減少となり、10月の同▲12万人減から減少幅が拡大したほか、サービス業も引き続き大幅な減少（前年比▲21万人減）となった。雇用悪化の中心は輸出ウェイトの高い製造業から国内需要中心の非製造業へシフトしつつある。

従業員規模別には、4ヵ月連続で全ての規模で前年よりも雇用者数が減少した。

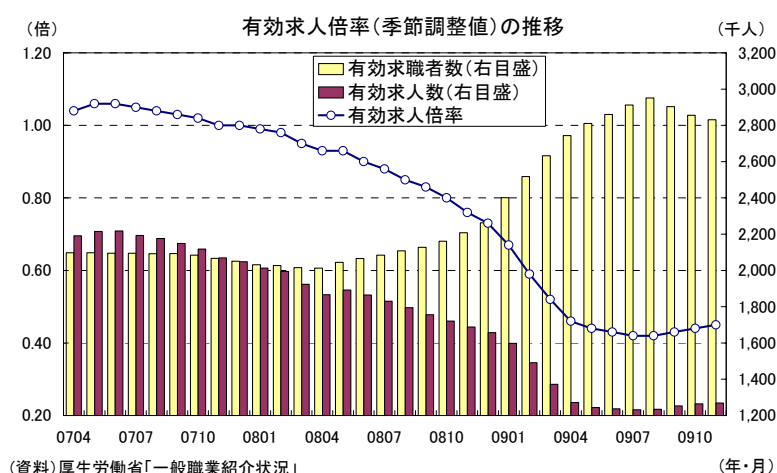
2. 労働需給は改善傾向

厚生労働省が12月25日に公表した一般職業紹介状況によると、11月の有効求人倍率は前月から0.01ポイント上昇し0.45倍となった（ロイター事前予想：0.44倍、当社予想は0.45倍）。有効求人倍率の改善は3ヵ月連続となる。有効求職者数が前月比▲0.9%と3ヵ月連続で減少する一方、有効求人数が前月比0.3%と4ヵ月連続で増加した。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から0.02ポイント上昇し0.80倍となった。

新規求人数の内訳を産業別に見ると、製造業が前年比▲16.2%と10月の同▲31.4%から減少幅が大きく縮小し、このうちパートタイムは前年比7.4%と増加に転じた。

求人数、求人倍率の水準は依然として非常に低いものの、09年度入り後の景気持ち直しを反映し、労働需給は方向としては改善傾向が明確となりつつある。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。